

平成19年11月19日

保護者様

広島市立城山北中学校
校長 佐藤昌史

平成19年度「基礎・基本」定着状況調査について

晩秋の候、保護者の皆様におかれましてはますますご清祥のこととお喜び申し上げます。平素より本校の教育活動にご理解ご協力いただきまして心よりお礼申し上げます。

さて、6月12日に第2学年を対象に「基礎・基本」定着状況調査が実施されました。調査は、国語、数学、英語の定着状況及び生活と学習に関するアンケートです。その調査の結果について、広島県教育委員会より発表がありました。本校でも分析及び考察いたしましたので主な部分を紹介いたしますとともに、それをもとに今後の指導法の改善と課題の解決に努めていきたいと思っております。

【各教科の調査結果について】

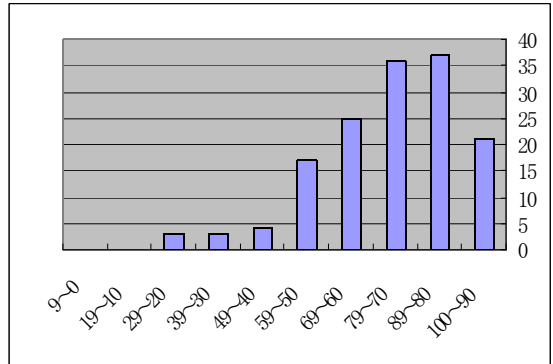
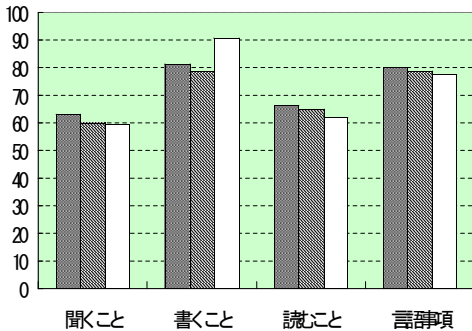
教科	本校	広島市平均	広島県平均
国語科平均通過率	73.4%	72.6%	74.4%
数学科平均通過率	63.9%	67.3%	69.0%
英語科平均通過率	70.0%	71.8%	73.4%

(注：各教科における「通過率」とは、受験者全体に占める正答者と準正答者数の割合です。)

【国語科の調査結果】

県・市との各領域の通過率比較

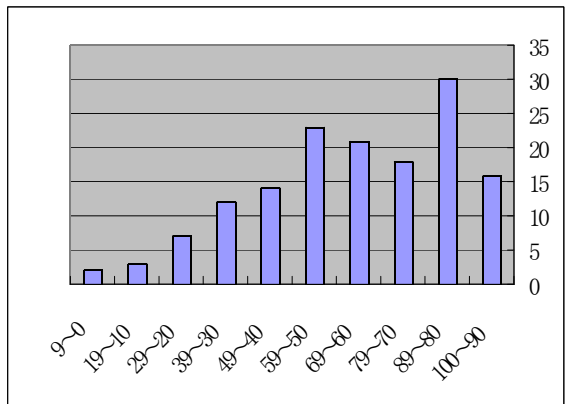
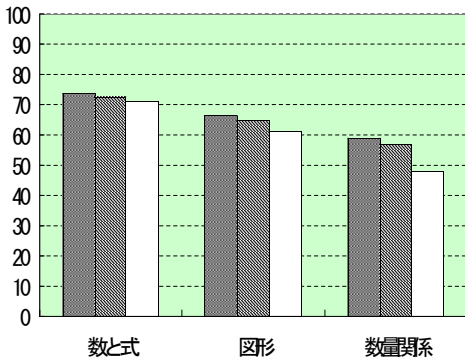
■ 広島県 ■ 広島市 □ 本校
本校の通過率分布



【数学科の調査結果】

県・市との各領域の通過率比較

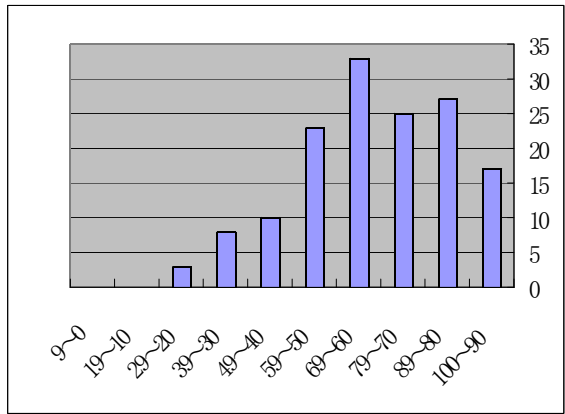
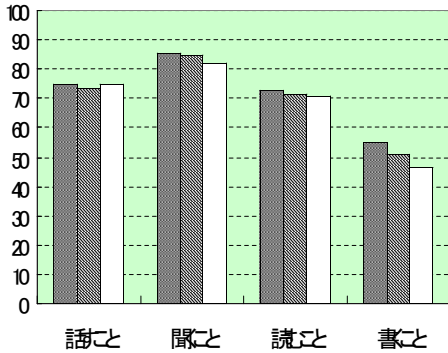
本校の通過率分布



【英語科の調査結果】

県・市との各領域の通過率比較

本校の通過率分布



【各教科の分析と考察、今後の取り組み】

【国語科】

分析と考察

本校2年生の実態として「読むこと」と「言語事項」の設問と通過率を細かく見てみると、2つの課題が挙げられます。1つには「人物の心情や主題をとらえる」ことができていない生徒が多いことです。(県、市平均 73~69%に対して本校 55%) これは、読書体験が豊富でなかったり、登場人物の気持ちに入り込んで小説を読む機会が少なかったりする生徒がいるためと考えられます。2つ目の課題としては、「言語事項」で「単語の類別」の設問が多く、生徒に理解できていなかったことです。(県、市平均 52~50%に対して本校 30%) 文法の学習に関して、昨年度購入した文法テキストを活用して単語の種類を学習することが不十分であったと思われます。

今後の取り組み

この分析結果を受けて、「読むこと」については、国語の授業の中で人物の心情を立場や視点を換えながら考え、読み深める活動を今まで以上に取り入れていきます。現在、『平家物語 扇の的』の教材で行っていますが、今後も様々な作品で継続していく予定です。

「言語事項」(文法)については、すでに7月から9月の授業の中で1年生の時の復習から2年生での学習事項までを学習し終わっています。ただし、文法と漢字の習得は反復学習が効果的であるため、今後も指導を続けていきます。

【数学科】

分析と考察

数学の領域は、「数と式」、「図形」、「数量関係」の3つの領域に分けられます。その中で「数と式」の通過率が高くなり、次いで「図形」、「数量関係」という順になります。これは県全体や市全体と同じ傾向にあります。ただし、本校生徒の数学における通過率の分布をみてみると通常とは異なり2つのピークが存在する分布になっています。このことから二極化が進んでいる事がわかります。

細かい設問を分析すると、特に「数と式」における「事象の中の数量関係を文字を使って表現し、一般的に考察する」ことが苦手な生徒が多いようです。(県、市平均 32~30%に対して本校 20%) また、「数量関係」における「ともなって変わる2つの数量の関係を文章、表、グラフから式に表す力」も十分ではないという結果が出ています。(県、市平均 66~62%に対して本校 50%) 文章に表れている数量が何を表し、それらの数量がどういう関係であるかを読み取れないことが、数学的な表現や処理を問う設問の通過率の低さにもつながっています。

今後の取り組み

身の回りの具体的な事象を授業の中でできるだけ取り入れることにより、生徒の興味関心を持たせるように工夫していきたいと考えています。また、文字を使って考える有用性の理解をさせていきます。暮会学習や日々の課題を課することにより、基礎的な数式の処理能力を高めていきます。

1次関数の学習においては、授業内容と関連づけて比例や反比例の復習を行い、学習プリントを用いて家庭学習の定着をさせるとともに、単元テストおよびその後の再テストで学力の定着を図ります。

【英語科】

分析と考察

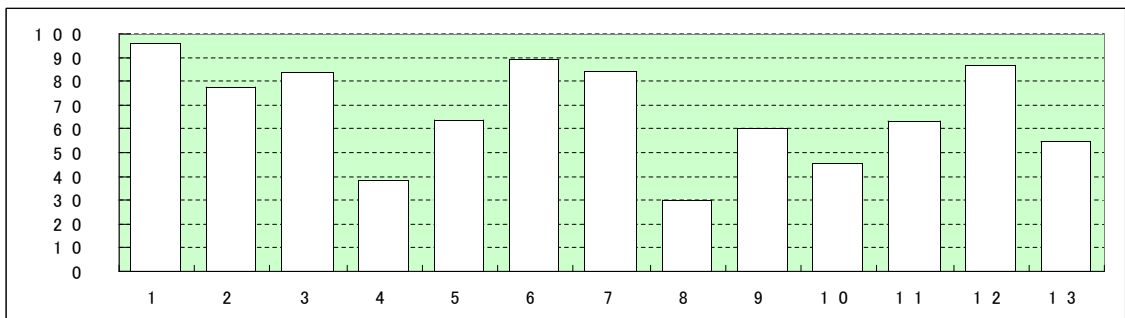
「聞くこと」と「書くこと」に関しては、全体的に弱い傾向にあります。「聞くこと」では、「疑問詞を使った文に対して適切に応じる」という設問の通過率が本校は 53.4%で県平均 70.4%、市平均 68.6%に比べ低くなっています。また、「書くこと」では「this の用法について知識があり、this を用いて簡単な文を書く」という設問の通過率が、16.4%でこれも県平均 42.3%、市平均 34.0%に対して低く、条件付けをされた中での表現力に課題があります。

今後の取り組み

まず、口頭の質問に対して、必要最低限ではなく正確に应答する場面を増やしていきたいと考えています。具体的にはインタビューテストやハンドアウトなどを通して、質問に対して正確に应答する力や書く力を育てていけると考えています。また、文章を読んで、その内容をイメージ化して英語での表現につなげていく練習を行います。さらに課題作文などの取り組みを行い、表現力を上げていきたいと考えています。

【生活・学習に関する調査結果について】

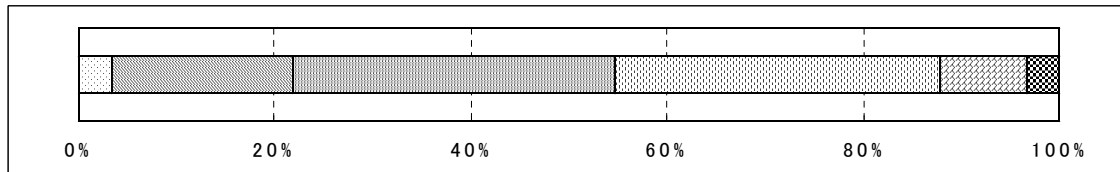
(1) 生活・学習に関する調査



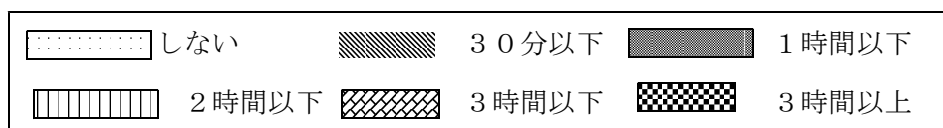
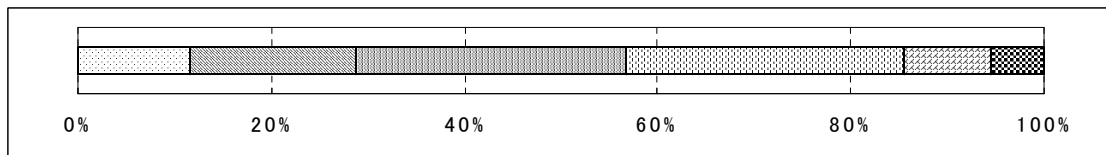
番号	区分	設問	「はい」と回答した%		
			本校	広島市	広島県
1	生活習慣	毎日朝食を食べています。	95.9	93.9	93.9
2	学習動機	学校に行くのは楽しいです。	77.4	81.0	79.6
3	自己効力感	努力すれば、自分もたいていのことはできると思います。	83.6	81.2	81.5
4	学習動機	「やりなさい」と言われるから勉強しています。	38.4	45.0	46.1
5	人間関係	自分のことをよくわかってくれる先生がいます。	63.7	56.0	54.4
6	人間関係	自分のことをよくわかってくれる友だちがいます。	89.0	91.1	90.1
7	人間関係	家の人は、自分のことをわかってくれていると思います。	84.2	85.3	84.1
8	生活習慣	読んだ本について、友達や家族と話をしています。	30.1	36.6	37.0
9	自己実現力	将来の夢や目標を持っています。	60.3	73.0	74.2
10	自己実現力	将来の夢や目標は、かなうと思います。	45.2	53.8	56.3
11	自己効力感	自分にはよいところがあります。	63.0	65.6	65.5
12	自己効力感	物事を最後までやり遂げて、うれしかったことがあります。	87.0	89.6	89.0
13	自己効力感	自分のよさは、周りから認められていると思います。	54.8	51.5	51.5

(2) 家庭での学習時間に関する調査

ふだん、(月～金曜日)、一日何時間くらい勉強しますか。(塾や家庭教師との学習は除く)



ふだん、(土・日曜日、祝日など)、一日何時間くらい勉強しますか。(塾や家庭教師との学習は除く)



分析と考察

生活などに関する調査では、毎日朝食をとっている生徒は、95.9%、起床時刻が大体決まっている生徒は、91.1%と高く、基本的な生活習慣が確立されています。また、友だちや家の人が自分のことをよくわかってくれていると感じている生徒はほぼ県平均市平均と並んでおり、先生が自分のことをわかってくれていると感じている生徒も、63.7%という高い数値で、自分を取り巻く人間関係づくりでは良好な関係を作っていることがわかります。

自己実現力については、自分も努力すればたいのことは出来ると思っている生徒が、83.6% (県平均 81.5%) もいる反面、将来の夢や目標を持っている生徒は、60.3% (県平均 74.2%)、その夢や目標がかなうと思っている生徒は 45.2% (県平均 56.3%) と低く、自分の将来について考えている生徒が少ないのではないかと思います。そのため、将来の職業や上級学校に向けて具体的に目標を持ったり、実現に向けて動き出せずにいるのかもしれない。

家庭での学習習慣においては、平日に学習しない生徒 3.4% (県平均 11.6%)、土曜・日曜に学習しない生徒 11.6% (県平均 17.2%) で、比較的良好に学習に取り組んでいることがうかがえます。五目ノート等で授業の復習をしたり、単元テストや定期テストに向けて取り組んだりして家庭学習が定着しつつあると言えます。ただし、目的意識を持って学習していると答えた生徒は約半数(本校平均 55.5%、県平均 66.2%) で、将来の夢や目標をまだ持っていない部分と重なっていることが明らかになりました。

今後の取り組み

自分の将来について考えを深め、夢や目標に向けて努力していくためには、学校でも段階を経た取り組みが必要になってきます。まず、学習や進路等について小さな目標を持たせ、達成できたことを評価しながら、夢や希望の実現もその延長線上にあることを理解させたいと考えています。職場体験学習で仕事について学ぶことも、生徒にとっては将来の自分をイメージする重要な学習の場であったと言えます。ぜひご家庭でも、将来に向けて夢や目標を持つことの大切さをお話し下さり、ご自身の社会人としてのご苦労や職業を持つ責任や喜びなど、生徒に語っていただければ、幸いです。

また、家庭学習の習慣をさらに定着させ、各教科で自主的な学習ができる取り組みなど学習内容についての助言をしていきたいと考えています。毎日の授業や暮会学習を通して継続していくことの大切さ、さらに自分で工夫して学習に取り組む姿勢など学習に対する基本的な心構えから、進路に向けて見通しを持って自分で学習の計画が立てられるような取り組みまで個別に支援していきたいと考えています。

これからも日々の活動の中で、生徒とのふれあいや対話を多くして、信頼関係を築いていきたいと考えています。今後ともご協力をよろしくお願いいたします。